

原記載以後図説としては三輪博士のものがあり (l. c., p. 484, pl. 81, f. 7), 林 長閑博士が生態について図説されたものがある (昆虫と自然 Vol. 9, No. 10, p. 29, グラビア 1, 1974), 更に久松定成氏による検索表もある (l. c., p. 219, 1985)。分布は北海道, 本州, 九州でキクイゾウムシ類の孔道で発見されるとある。兵庫県下からは初めての記録になる。ホソエンマムシ *N. impressicollis* Lewis の方も県下で発見される可能性は充分ある。

## 兵庫県におけるセスジナガキマワリの分布

(兵庫県甲虫相資料・164)

高橋 寿郎

最近今坂正一氏は日本におけるハネナシセスジキマワリとセスジナガキマワリの分布に就いて発表しておられる (月刊むし No. 172, p. 23-25, 1985)。それによると両種共兵庫県での記録が無い。そこで手許の筆者の標本を調べて見るとセスジナガキマワリ *Strongylium cultellatum* Maklin が次の通りあった。明石市明石公園産 1♀, 7-VII-1979。神戸市烏原産 1♀, 17-VIII-1969, 1♀, 29-VIII-1980。また兵庫県下での本種の記録は川西市見野, 横地〔仲田, 1970, 1978, 1982〕。多紀郡篠山町〔山本, 高橋, 1962〕, 城崎郡城崎〔高倉, 1979〕とある。従ってこれ等を見る限り県下には広く分布している種のようなのである。採集の時期からして7月中旬頃から8月終り頃までに活動しているようにも思われる。ところで兵庫県下にはハネナシセスジキマワリ *S. apterum* Nomura et Yamazaki の記録もある (出石郡出石町城山・高橋, 1963)。本種の方は大体九州を中心に分布している種のようなので近畿地方での記録はほとんど知られていないが今坂氏によると福井県の雄島, 青葉山, 大島半島, 京都府冠島, 隠岐などの記録も紹介されている。兵庫県下で両種が共存しているのかどうかこれから調べて見たい点でもある。

(AUG. -1985)